

のり海況速報 第6報 (22-6)

平成22年12月8日発行
千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 (12/6: 東京湾全域)
関東・東海海況速報 (12/7), 東京湾口海況図(12/7)

【水温・塩分の状況】

内湾から内房北部海域の表面水温(図1左)は先週からほぼ順調に低下し、現在ほぼ15~17℃台前半になっています。

塩分は12月3日の大雨(横浜: 92mm)によって東京灯標付近を中心にかなり低くなっていますが、千葉県側ではほぼ29~32台となっています。

一方、11月中旬ごろから内湾底層部まで侵入していた高水温・高塩分の外洋水塊は先週頃から弱まり、12月7日現在湾口部の水温は20℃前後になっていますので、いまのところ内房北部海域まで流入する恐れは少ないと思われます。

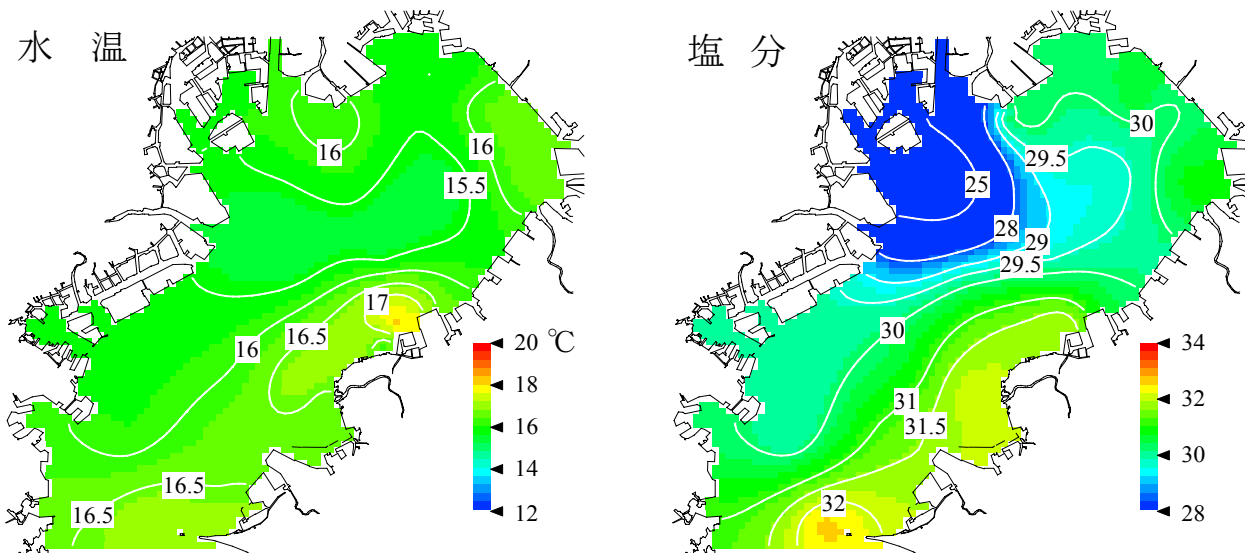


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾 : 平成22年12月6日)

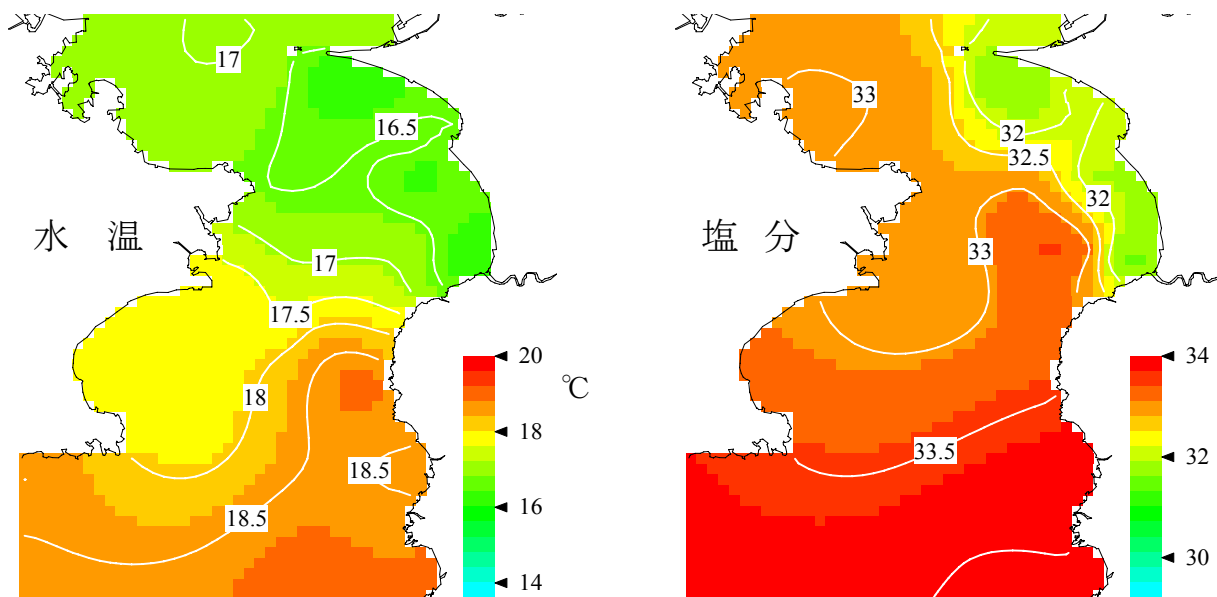


図2 表層の水温・塩分分布 (内房北部海域 : 平成22年12月6日)

【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮は内湾，内房北部海域とも発生していませんが，内湾ではプランクトンがやや増加傾向を示しており，中央から北部は透明度がほぼ2m台と低く，水色はやや褐色になっていました。

優占種は小型の渦鞭毛藻とケイ藻のスケルトネマで，内湾北部ではギムノディニウムもみられています。

表層の栄養塩(図3, 4)はリン酸態リンが全体的に平年より少なくなっていますが，現在のところノリ養殖にとって支障のない量です。

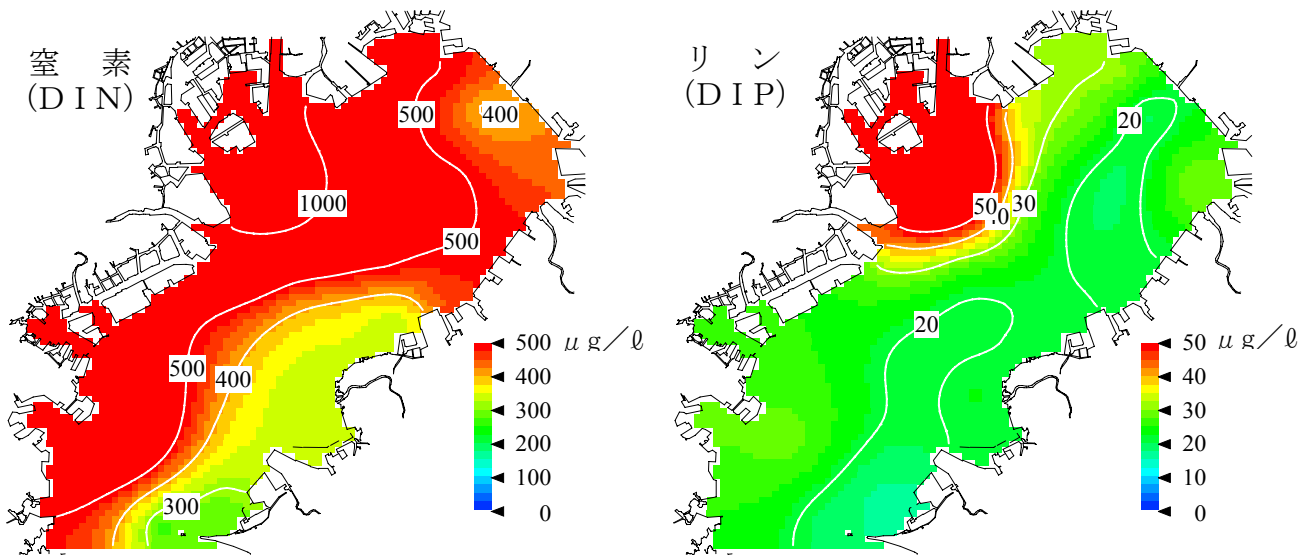


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾 : 平成22年12月6日)

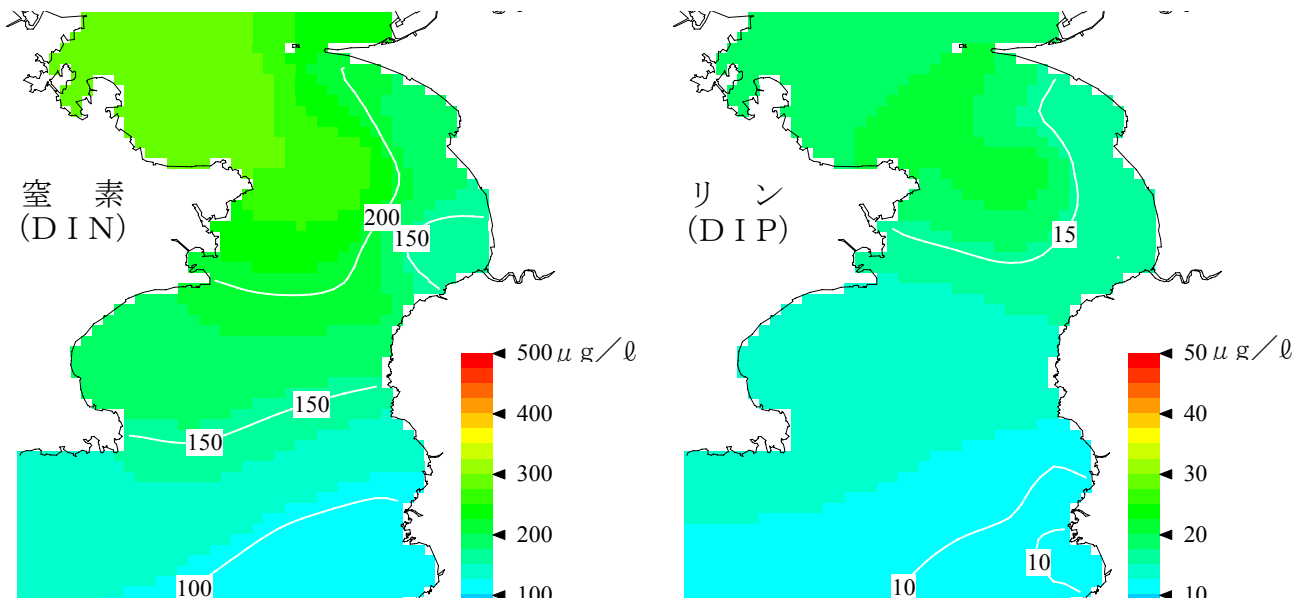


図4 表層の栄養塩濃度の分布 (内房北部海域 : 平成22年12月6日)